

日 時 令和8年2月18日（水）10時～12時

場 所 神奈川県庁西庁舎 7階701会議室

出席委員

吉村 千洋【委員長】

太田 隆之、大沼 あゆみ、岡田 久子、土屋 俊幸、羽澄 俊裕

審議（会議）経過

（事務局）

ただいまより水源環境保全・再生かながわ県民会議第74回施策調査専門委員会を開会させていただきます。

専門委員会につきましては、県民会議の扱いを準用し、施策調査専門委員会設置要綱第5条により原則公開とさせていただきます。

本日の委員会は対面で5名、オンラインで1名の6名の委員に御出席いただいております。

それでは、これより議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、吉村委員長、お願いいたします。

（吉村委員長）

皆さん、おはようございます。予定を見ますとこの委員会は今年度最後ということで、年度末に向けていくつか決めていけない内容がありますので、本日もよろしくお願ひします。

それでは、早速ですが、議事次第に沿っていきたいと思います。

【議題1 令和6年度点検結果報告書及び同概要版について】

（吉村委員長）

まず1点目、令和6年度、昨年度の点検結果報告書及び概要版についてということで、先月、県民会議全体で意見照会を行っていただきました。本日はその結果を踏まえて修正案について議論したいと思います。あわせて概要版についても原案を事務局で作成いただきましたので、御確認いただくことになっております。

それでは、資料1に関して御説明をお願いいたします。

[資料1-1～資料1-5により事務局から説明]

（吉村委員長）

御説明ありがとうございました。

点検結果報告書の修正版と概要版を作成いただいたところです。皆さん、御意見を出していただいたかと思ひますので、このような対応でいいかどうかを御確認ください。追加

でコメントや御意見がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

(岡田委員)

資料1の概要版を見せていただいて思ったのですが、中開きの右上の赤の四角に「第4期5か年の事業進捗状況(令和6年度)」とありますが、第4期の中のこれがどの年度か、何年目か、そういう情報がないと、58%などの進捗状況との兼ね合いが分かりづらいかと思いました。

(事務局)

表の右上のところに「令和6年度(3年目)までの進捗率」と書いてあって、3年目なのでおおむね60%前後かなという目安です。

(吉村委員長)

少し小さいから分かりづらいですね。

(岡田委員)

これだけではなく、実績版を読んで何年目なのだろうと思うことがよくあります。

(事務局)

表紙などに5か年のうちの例えば3年目みたいな情報があると分かりやすいかと。

(吉村委員長)

概要版は見開きの中の左上のタイトルに追記しましょうか。

(事務局)

タイトルの見開きの「第4期5か年の事業進捗状況」くらいの大きい数字で、タイトルのところに、今、5か年のうちの3年目ですよというのが分かるように出すともっと分かりやすいということですね。

(吉村委員長)

そうですね。この辺りかと思ったのですが、表の上はスペースがなさそうなので。

(事務局)

実施状況の枠の辺りや、その横の余白のところでしょうか。

(吉村委員長)

はい。いかがでしょうか。表紙には少し入れづらいですよ。第4期が何年から何年という説明は必要になってくるので、その辺りかなと。

(事務局)

しずくちゃんのイラストを少し小さくすれば入るかなという感じです。

まず見開きの中のページの特別対策事業のところに5年のうち3年という点と、あとは、表紙に分かりやすく付け加えられないかをレイアウトも含めて検討させていただければと思います。ありがとうございます。

(吉村委員長)

表紙の文章の中に第4期と括弧で出てきます。ここに何年から何年と書くようにしましょうか。同じように本文も表紙の第4期のところに令和で何年から何年という形ですかね。そうすると令和6年度が何年目かが分かります。では、そのように追記していただく方向でお願いします。

(事務局)

承知しました。

(吉村委員長)

ほかにいかがでしょうか。

(大沼委員)

細かいところで体裁の話で少しお聞きしたいのですが、点検結果報告書の実績版を開いてみると、「Ⅰ はじめに」とあります。次のページにも「1 はじめに」とあります。そこから1、2、3となって、次に今度は「Ⅱ 特別対策事業の点検結果の総括」になって、今度1は「特別対策事業の総括（まとめ）」という形になっています。つまり、今までの例だと、各章の一番上には各チャプターの内容が来ています。一方、Ⅲになると点検結果1の「水源の森林づくり事業の推進」という形になっています。我々論文を書いたりする立場からすると、書き方をもう少し整理したほうがいいかなと思いました。

(羽澄委員)

1章の「はじめに」も、節でまた「はじめに」が出るから、ほかの書き方ではどうかということですね。

(大沼委員)

内容ではなくて申し訳ないのですけれども、そういうところです。

(吉村委員長)

ありがとうございます。各章の見出しが統一されていないということですね。整合していない部分があるということだと思うのですが、具体的なところは伝わっていますでしょうか。

(大沼委員)

どうしていいか分からなければ聞いていただければと思います。

(羽澄委員)

2章のところも「総括」だけでいいかもしれません。例えばですが、1章は「序」などに替えて、2章は1節がありますので、長く書かずに「総括」と書いてはどうでしょうか。

(吉村委員長)

おっしゃるとおりです。0-7ページの次のページに2章のタイトルがあります。そこを簡潔にしてもいいのではないかという御指摘です。恐らく統一はされていると思うのですが、一部抜けがあるということかと思しますので、私のほうでも見直して具体的にチェックを入れるようにしましょう。

(事務局)

一度修正させていただいて、後日、吉村先生と確認させていただければと思います。

(吉村委員長)

それ以外にいかがでしょうか。

(土屋委員)

内容の細かい話になるのですが、資料1-3の実績版の1-3ページにかながわ森林塾の記載があります。追加いただきまして前よりも分かりやすくなったかと思いますが、赤字で増えた部分は、要するに林業の現状が神奈川県と全国とかなり違う点を、説明していただいています。それ以外に、社会の動きとして、もう一つ大きいのは、この間に各都道府県で林業大学校的なものがすごく増えて、希望者から見ると選択肢がものすごく増えたことがあります。かつ、森林塾もかなり助成しているけれども、ずっとフルタイムでほとんどお金がかからないところなども出てきているし、場合によっては県の職員に採用しますよというところも出てきています。その中で失礼な言い方ですが、ライトなこの塾に対する需要も当然ありますが、選択肢が増えてしまったことはかなり大きいと思っています。実は選択肢が増えて、都道府県の林業大学校もみんなかなり倍率が下がっています。私は高知の林業大学校に関わって、そこもこれまでずっと応募者数が多くて、応募人員などかなりよかったのですが、それが去年くらいから落ちているところがあります。その辺りの情報を簡単に、つまり各都道府県で林業大学校的な取組がすごく増えたので、選択肢が増えてしまったことが大きいという点は記載しておいてもいいような気がするのですが、いかがですか。

(吉村委員長)

いかがでしょうか。その辺りの数字はすぐに分からないかもしれないですけど。

(森林再生課)

担当が異なりますので、一度確認してみます。

(吉村委員長)

もしそういった事実があるようでしたら追記する形としましょう。「選択肢が増えた」という文言はありますので、その前に「林業大学校」というキーワードを入れて、一般的な有効求人倍率だけではなくて、関連する学校の状況もあるよというところを入れるようにお願いします。

(土屋委員)

林業をやろうとしている中でもまた選択肢が増えています。

(吉村委員長)

むしろそちらのほうが重要なのかもしれません。

(土屋委員)

この間の変化はそっちのほうが大きいと思います。

(吉村委員長)

そうですか。では、そこは実績を確認しましょう。
ほかにいかがでしょうか。

(環境科学センター)

資料1-3の6-1ページに新しく「カワムツ等」を事務局で入れていただいたのですが、カワムツは外来種になります。事実は事実としてあると思うのですがけれども、この報告書に入れるとまるでよいことのように見えてしまうという懸念があります。

(羽澄委員)

記載はやめたほうがいいでしょう。

(環境科学センター)

カワムツは西側の魚で、琵琶湖などの方からのアユの放流とかで入ってきてしまうということがあり、酒匂川にもいたりします。あと、最近アクアリウムの川魚十把一絡げ幾らみたいなもので結構売っているので、一般の方が放流することもあると言われていて、いろいろなソースで入ってきてしまっているのは確かではあります。

(羽澄委員)

ここは代替案を何か一種挙げればよいと思いますが、外来魚種も増えているという記述は要らないですか。

(環境科学センター)

このところで言いますと、まだその傾向が分からないため、これだけで言うのは危ないかと思います。酒匂川全域で、本流のほうにカワムツが入ってきているのは確

かです。気になっているのは堰を外してしまうとどんどん生息域を広げるので、それは在来種も増えるし、外来魚も一緒に入ってこられる状況になってしまう部分もあるので、一概に言いづらい部分があります。

(吉村委員長)

カワムツの種名は、在来種で新たに発見した種もありますよね。その例に差し替えることにしましょうか。

(事務局)

もし芳しいものがなければ、その「カワムツ等の種類の増加がみられ」はケイリュウダニだけの事例にとどめるところを考えたいと思います。ケイリュウダニは比較的美丽なところに生息という認識がございしますので。

(吉村委員長)

ケイリュウダニというのはどんな生物なのですか。ダニではないですよね。

(環境科学センター)

ミズダニなのだと思います。ミズダニのタイプだと思うのですが、なかなかレアというか、あまりダニを調査というのは多くないのですごいところを持ってきたと思いますが、多分差があまりなかったのかもしれませんが。河川・水路整備事業は、種数増加が起きるかは、結構周辺にいて、何か取り払われてという状況なのだと思います。どちらかというと本当は棲みやすくなって生物量が多くなったみたいなことはあり得ると思っています。今までも私のほうで研究をやっている中でもそういうものはあり得ると思いますが、いきなり種がぽんと増えるのは信用しがたい結果なので、もしかするとあまり特出しすべきでもないのかと思います。無理してケイリュウダニを持ってくるのは間違いではないと思うのですが、ケイリュウダニはミズダニだと思いますので。

(吉村委員長)

そうすると、種数が増加したというのはあまり明確ではないということなのですかね。

(羽澄委員)

むしろこれだけ外来種が増えるというのは自然な流れかもしれないです。

(吉村委員長)

そうですね。在来種の個体数が増えたというのはあるのですか。

(環境科学センター)

今までの河川・水路事業でもそういうことがあったりします。我々の調査でも、ビオトープなどをつくり棲みやすくすると、やはりそこに周辺の魚が集まってくることはあると思いますし、今までもそういう評価をしていたことがあるので、そういう評価ができるの

であれば、過去のデータから捕獲個体数が同じ時間で増えたのであれば、そこにはやはり棲みやすい何かがあるだろうというのは間違いないのかと思います。

(事務局)

個別の市町村から出てくるモニタリング結果だと、種に丸がついているような一覧でしか確認できない可能性が高いため、生物量で比較可能なところは難しいかと思います。図表とかにまとめられていないだけで、元データはあるのかもしれませんが、そのレベルから確認しなければいけないということだと、難易度は高いかと思います。

(環境科学センター)

今すぐというのが難しいのであれば、あえて特出ししないほうがこのような評価の場合よいのかと思います。

(吉村委員長)

岡田委員、種名に関してはいかがですか。

(岡田委員)

「新たな種が確認された」とあるので、どのような種だろうというのは興味が湧くところだなと思いましたが、記載が難しいのであれば、少しトーンダウンさせたほうがいいかなという気がします。

(吉村委員長)

種数は増加していたが、外来種も含まれていたというところまで書きますか。

(岡田委員)

外来種ではあるが（種数は増加していた）。

(羽澄委員)

あまり煩雑にしない方がいいと思います。

(吉村委員長)

シンプルに「多数の生物が生息していることが確認された」ととどめるなど、総括の部分はこの2か所の例を省略しましょうか。ここの種は確かに増えたのだとは思いますが、賛否両論といいますか、いい面と悪い面とありそうなので、総括しづらいかと思います。県民の皆さんが確認したい場合は、どの資料で確認ができるのでしょうか。

(事務局)

今は載せていない情報となります。

(吉村委員長)

公開していないということであれば、もう少し精査が必要ですので、ここはシンプルな記述に変更しましょう。

(事務局)

では、吉村先生がおっしゃったように「底生生物を含めた多数の生物が生息していることが確認された」で切って、「2箇所」以降「また」の前まで削除させていただければと思います。

(吉村委員長)

それでいかがでしょうか。よろしいですか。

では、そうしましょう。ありがとうございます。

そのほかにはいかがでしょうか。

私からコメントさせていただきますと、本文の全体総括の0－8ページに追記していただいたところなのですが、赤字の部分の「応募者数、就業者数」の点が気になってしまいました。点よりも「と」のほうがいいかなと思いますが、そこは自然なほうを採用していただければと思います。

また、概要版でフォーラムの点に触れていただきましたが、本体のほうに入っていないなと思いました。本体の記載はないですね。

(事務局)

0－8には書いていません。

(吉村委員長)

そうすると、概要版にしか書いていない情報になってしまって、概要にならないことになるので、きっと本体でも触れないといけないかと思います。

(事務局)

下から2つ目のパラグラフの県民会議の取組のところの「概要版を作成した」の後にフォーラムの関係の記載を追加いたします。

(吉村委員長)

1ページを超えてしまうかもしれないので、その場合は最後の段落を少し簡潔にしてもいいかなと思いました。

それから、田島委員からpHの指摘がありました。本日御説明は省略されたかと思いますが、資料としてはどちらに記載がありますか。

(事務局)

資料1－2の21番になります。

(吉村委員長)

これは9番事業に関係した話で、ページをめくっていたら9-5ページにポリ塩化アルミニウム処理の説明がありました。よく見ると「アルカリ剤添加」と書いてありますので、ここを御説明すればいいような気がします。PAC添加とアルカリ剤添加の順番が不自然に見えることもないのですけれども、処理としてはこれでいいと思いますので、読んでいただく方にはPAC添加の後にpH調整があると一番分かりやすいのかもしれないのですけれども、一応効率のいいやり方として事前にアルカリ剤を添加してpH調整しています。

(事務局)

この前にアルカリ剤添加があることで、後に酸性のものと合わせて中和されていくということだったそうです。

あえて図に中和と入れるのもどうなのかという議論も事務局内でありました。

(吉村委員長)

中和という表現は入れづらい処理なので、こういう記述がありますという回答でいいような気がします。

あと、概要版のほうですが、表紙の赤字部分で、文言の話なのですが、最後の2行「より多くの人に普及啓発ができた」というところの「人」という表現がいいのかなという。

(事務局)

県民というと、県民以外の方、神奈川県以外の方もいらっしゃるなどと思って、悩みながらそのまま載せてしまいました。

(吉村委員長)

「多くの方」でどうでしょうか。また、最後の括りですけれども、「普及啓発ができた」というよりも、少し主体的に「普及啓発を行った」でどうですか。県民会議としてということですね。

(事務局)

そうですね。

(吉村委員長)

あと確認ですが、資料内の赤枠は最終的には取りますよね。

(事務局)

後で取ります。今回の委員会用として、皆さんに変わっているところが分かりやすいようにつけています。最終的には取るものです。

(吉村委員長)

分かりました。以上です。

ほかによろしいでしょうか。

(土屋委員)

細かい話ですが、年の表記について、概要版についても平成と西暦が併記されているところとされていないところがございます。

私は併記がいいと思うのですが、物理的に、スペース的に無理なところは令和6年度だけでいいですが、もう少し増やせそうだなという気がしています。具体的には、併記されているのは見開きの右側の上のところの事業進捗状況と、これは現在ではないですけれども、最後のページの「良質な水の安定的確保のために」の中で「平成19年(2007年)」という、ここだけになっています。ここに載せるのであれば、ほかもなるべく載せたほうがいいなと思いました。

(吉村委員長)

スペースがあるところは追記することにしましょうか。ありがとうございます。

そうしましたら、次の議題に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

細かい点が幾つかありましたので、修正していただいて、それを県民会議に諮ることにしたいと思います。

【議題2 令和8年度事業モニターのテーマ検討について】

(吉村委員長)

では、議題2に進みたいと思います。「令和8年度事業モニターのテーマ検討について」ということです。前回の委員会で議論いただきまして、事業モニターチームとの連携の仕方について具体的な案を頂いたところです。本日は具体的なスケジュールや連携案を検討して、この委員会として事業モニターチームに対して来年度の事業モニターテーマ等の提案がまとまればと思いますので、御検討いただきたいと思います。

それでは、資料2をまず事務局から御説明いただきたいと思います。お願いします。

[資料2-1～資料2-3により事務局から説明]

(吉村委員長)

ありがとうございました。

昨年から議論を続けている話題ですが、事業モニターチームとの連携案についてです。連携の概要については資料2-2ということで、県民会議との関係も含めて更新していただきました。この流れでいきますと、この後、事業モニターチームで検討会議が予定されているということですね。そちらにできれば提案したいということですが、来年度に関しては、このスケジュールでいきますと事業モニターを実施できる箇所は1箇所ないし2箇所というところでしょうか。

(事務局)

先日の委員会において、回数については3回から2回に減らしてはどうかという御意見

がありましたので、実施時期は9月と10月に2回おいております。あとはその2回の中で1日に2箇所見ることができるような立地であれば、場合によっては複数事業を見ることも可能となります。

(吉村委員長)

ありがとうございます。この概要についてはよろしいですか。

そうしましたら、具体的にどういった事業、場所を対象にモニタリングしていただくとよいかというところですが、資料2-3の原案についての議論となるかと思えます。もともと来年度は順番的には水関係事業を想定していたのですが、単純に考えるのではなく、最終評価に直接つながるような重要なところを確認すべきだということの方が大事になるかと思えますので、前回の議論を踏まえて候補事業を1、2、3と選定していただいたところですが。

議論の前に確認ですが、候補事業2に括弧づけで6の河川・水路が入っていますが、これはどういった意図だったのでしょうか。

(事務局)

県民会議で作成いただいた評価の流れ図があります。本日の資料1-3の0-4ページに記載がありますが、この中の2次アウトカムを見る評価軸の1つに生態系の健全化があります。これは森林と河川両方に及ぶものとなりますので、河川事業の状況を見るとしたら6番事業も対象にするかというところで記載させていただきました。ただ、6番事業は市町村事業になるところも含めて、括弧書きとさせていただいた次第です。

(吉村委員長)

分かりました、そういうことですね。生態系の健全化を水事業に関しては選ぶとしたら6番事業になるだろうということですね。

いかがでしょうか。

(土屋委員)

前提のことでお伺いしたいのですが、事業モニターチームの事業モニターをやるときは、基本的に公募委員中心の方々が手を挙げていただけて行くことになっています。そのやり方が踏襲されるのかということなのですが、これはなかなか言いにくい話なのですが、委員の中には高齢の方や山歩きに慣れていない方もおられて、それから人数が多いので、一部アクセスのよいところへバスなどで行って、そこで林道脇に行くような形となっています。ですから例えば水源の森林づくり事業の推進の、要望にあったようにいいところばかりではなくて少し課題のある場所もとなると、恐らく今、行ける条件よりは実際はかなり歩いてもらって行く場合が多くなるのではないかと思います。私は別のところで自然環境モニタリング会議をやっていて、あれも結構山の上まで歩いて行って、そこでみんなで見るのが普通なので、内実を取るのか、そうではなくて様々な、言ってみれば歩くのに慣れていない委員も含めて、そこで見てもらうのか、どちらを取るかによって実際事業モニターがモニタリングできるかどうかが変わってきてしまうところがあり

ます。これは事業モニターチームのほうで本来議論すべきことですが、それをみんなで少し考えておかないと、ある意味ですごく中途半端になってしまう。残念ながら現状は、もう少し中まで入りたいよねというのがよく出てくることではあるので、これは時間とスケジュールの関係もあるのですけれども、その辺をどうするか。

(事務局)

今年度、2番事業の丹沢大山の保全再生事業で堂平へ行きました。2時間ほど登山して、下りも1時間ほどかけて下りてきてということで、長時間の行程でしたが、公募委員の方もほぼ全員が参加してくれています。

(土屋委員)

リフトか何かに乗ったというのは。

(事務局)

一部足をけがされていた方や登りに自信がない、下りに自信がない方には、そのときはモノレールを活用して乗っていただいたところもございます。

場所につきましては、この後、テーマが決まりましたら、そのテーマにおける好事例や課題のある箇所という議論になりますが、どこであれば行けそうかを事務局内でも検討させていただいて、また、モニターチームとも当日の行程なども相談しながら検討してまいりたいと思います。

(土屋委員)

堂平のことを報告でしか聞いていなかったもので、皆さんが行けたのであれば大丈夫です。

(羽澄委員)

今の御意見に追加ですけれども、今までの事業モニターに参加して、いつも皆さんが同じようにフラストレーションを抱えたのは、やはりピンポイントのその場所のお話は聞けるのだけれども、丹沢全体像の中でどういう位置にあるのかというイメージが描けないという点があります。そこは最初にストーリーをきちんと御説明いただいた上で、事業モニター当日に臨むということなのでしょうが、当日においてもピンポイントの場所でのいろいろな説明材料、これは研究機関や市町村から御説明があると思います。その前段として丹沢全体、これは県の仕事かもしれないのですが、そのテーマに関しては丹沢全体で今、どういう状況にあるのか。例えば針広混交林などの目標林型への誘導というテーマとなった場合、今の丹沢全体の人工林と広葉樹の全体像、それから何%くらいで混交林化が進んでいるのか、あるいは何%混交林化しようとしていて、そのうちの過渡期にある現場がここである、あるいは混交林化が成功した事例としてここにありますよ、あるいはやろうとしたけれどもうまくいかなかった事例としてここにあるなど。どれも全部見せる必要はないと思いますが、少なくともこの場所は全体像の中でどういうポイントなのかということが分かる材料を当日県の側からお示しさせていただいて、それでこの現場ですというふうにしなないと評価のしようがありません。要するに水源税はうまく使われているかという設問に回

答しなければいけないときに、やはり全体の9割はうまくいかなかったという中での評価と、9割はうまくいっているという中での評価は、評価する側にとってみると全然違います。評価シートにはそれを書くこととなっているため、事業モニターをする側は困ってしまいます。その辺りが分かるような材料を御用意いただけないとおそらく無理だと思います。

(事務局)

県が行っているモニタリングの箇所数や件数などもありますので、その辺りをどこまで拾い切れるか、分母がどのくらいになるかということもありますが、今後ストーリーをつくる上で参考にさせていただきたいと思います。

(羽澄委員)

ストーリーをつくっていく作業の中でそれが出てくるとと思いますので、そのデータの説明も当日加えていただけると分かりやすいと思います。

(吉村委員長)

今までも現場に入る前に説明の時間がありました。その辺り、県全体の状況に関しては自然環境保全センターの方に来ていただいて、例えば概要を御説明いただいて、その上でピンポイントの現場に入っていくという流れだと一番いいのかなと思いました。そういうパターンもあったような気もしますが、そこは確認するようにしましょう。事業モニターチームの検討会議のときにそういったところも確認しつつということもできると思います。モニターチーム以外の方も当日は参加されますよね。

(事務局)

有識者の方や関係団体の方にもお声がけさせていただいて、当日御出席いただける方には来ていただいております。

(吉村委員長)

土屋先生の御指摘は、参加者の方の体力やどの程度深く入っていきそうかというところで、基本的には皆さんが見学できる場所というところで検討いただいているということですね。場合によってはモノレールの使用ということもあるかもしれませんが。

(羽澄委員)

モノレールは好評のようでした。

(吉村委員長)

上から森林が見えてよかったのですかね。

スケジュールを見ますと、本日、事業を選定しまして、来年度6月のこの委員会でストーリー検討の場がもう一度あるということです。具体的な評価ポイントに関してももう一回議論する場があるということです。案としては針広混交林に関して、それから生態系の

健全化、シカ管理が大事なキーワードになりそうな感じではありますが、いかがでしょうか。

(岡田委員)

今日決めるのは資料2-3の4ページ目の候補事業1、2、3を挙げればよいのでしょうか。これを2月24日の事業モニターチームの検討会議で提案する。具体的にどこがいいかというストーリーづくりは来年度になるということでしょうか。

(事務局)

2月24日の事業モニターチームの検討会議で本日提案いただいた事業を対象とすることとなった場合には、3月から5月にかけて、事務局等で調整させていただいてストーリーをつくり、翌年度1回目の施策委員会で御議論お願いできればと思います。

(吉村委員長)

事業番号が決まってくると大事な視点が入ってきますので、本日でできればそこまで相談できればいいかなと思います。

(岡田委員)

分かりました。

(吉村委員長)

県事業だとやりやすいというのがありますので、それだけではないですけども、森林の事業が重点的になる形かなと思います。あえて水関係を選ぶとしたら、私としては生態系の話よりも皆さんが気になるのはPFAS、地下水の水質関連のほうがいいのかなと思います。そうすると秦野市など、市町村を介してということになるのでやりづらいかなというのがあります。

(岡田委員)

質問ですが、資料2-2のイメージ図についてです。モニター結果でここをちょっと改良したいというときには、その年度の点検結果報告書に反映して、それを県民会議に上程して県に提出しますが、この次期計画へ反映するという文言の次期計画というのは次の期でないと反映されないということでしょうか。例えば、I期のある年度のモニターの結果だったらII期での反映となりますか。

(事務局)

その年度の中で見直せるものは順次見直していきますし、規模が大きいものと計画期の変わるタイミング、I期からII期とかII期からIII期のときの意見書に入れていただくことで県としてはその対応を考えていく想定です。

(吉村委員長)

いかがですか。少し漠然としていて、意見が出しづらい、なかなか選びづらいのもあるとは思いますが、具体的なイメージはありますか。針広混交林を見に行く場合はこういうところとか、生態系の場合はこの辺がいいとかいうのは。

(事務局)

これは担当案となってしまいますが、水源の森林づくり事業は平成9年度からスタートして、水源環境保全税を導入したのが平成19年度からとなっております。平成19年度に水源税を導入した後、今、20年目に差しかかっていますので、具体的には平成19年度に確保して施行した場所が20年経ってどうなっているかを現場へ見に行く。20年目まで当初設計していた目標や目指す姿にどの程度近づいているか、到達しているかを現場で確認する。候補事業1についてはこのように考えております。

候補事業2につきましては、まだ具体的なイメージはありませんが、森林整備による生態系への影響・効果を研究機関でモニタリングしていますので、その辺りのデータも含めて現場がどう変わっていきえるかを確認できる箇所を選定していく形を想定しています。

いずれも事務局内で検討した方向性というよりは、現在の担当案となりますので、その点は御了承いただければと思います。

(吉村委員長)

分かりました、ありがとうございます。

追加の御意見はございますか。

特にならなければ、恐らく候補としては事業番号をまず示す形になると思いますので、この案1と案2をまとめて1番事業ということですね。

(事務局)

そうです。ただ、テーマが大きく変わってきますので、テーマから御議論いただくとよいかと思います。

(吉村委員長)

1番事業でテーマを2つ書いておけばいいのかなとも思ったのですが、そこは事業モニターチームのほうで具体化いただいても。

(羽澄委員)

横からすみません。この候補1と候補3は一緒にできるかもしれないです。

(吉村委員長)

現場に近いという意味で一緒にできるということですね。

(羽澄委員)

そうです。どこか選ぶのですが、全体を説明する際には必ずシカの影響が出てきますので、一緒にしておいたほうがよろしいかと。単体でシカ管理についてという話が出た

ときに、何を見せるのか。シューティングしている現場は安全面から見せるわけにはいきません。シカの密度データに関しては、保全センターがしっかり毎年取っています。ただ、本庁の自然環境保全課でもシカ管理をやっていますから、データは蓄積されていて、丹沢の中のどこが密度の高いエリアであるか全部把握されています。それを目標林型論の中にかぶせて説明を頂ければよいと思います。実際に事業モニターの人たちがシカの頭数調査に参加するわけでもありませんし、そう安易にシカは見られません。あくまで話として、両方をセットで議論を組み立てていただけるといいと思いました。シカは必ず重要な要素として絡んできます。例えば目標林型をこのようにしたいのだけれども、実はシカの密度がこう邪魔していますといった話になると思います。だからフェンスを囲っていますとか、ここはいよいよフェンスを取ってしまっても大丈夫な段階ですという話になると思います。それで候補事業1と3を合体させて、2を先ほど吉村先生がおっしゃったように水関係絡みのものに比重を置いたようなストーリーをつくっていてもよいかもしれません。

(吉村委員長)

ありがとうございます。シカは重要になりますので、私も外せないかなと思います。甲乙つけがたい点もありますので、優先順位がなかなか難しいところですね。

(土屋委員)

追加で全く同じことを言うようですが、候補事業1について、うまくいっている例をモニターする場合、よほど比率を下げない限りは、今おっしゃったように防鹿柵などの対策をとっていないと針広混交林は絶対うまくいきません。ですので、事実上そこで両方見られるかと思います。

(吉村委員長)

そうしましたら、書き方の問題になりますけれども、今の御提案を踏まえて、書類としてはテーマでリスト化しておくのがいいかなと思いました。

例えば4ページの候補事業1のテーマをまず第1候補、2番目にテーマ2としてシカ管理について、3番目が悩ましいところなのですけれども、森林の生態系か、地下水はやめたほうがいいですかね。そこは事務局次第かなと思います。

(事務局)

PFASの関係ですと、現時点で特段対策を取っているわけではないという点もございます。

(吉村委員長)

モニタリングはされているのですよね。

(事務局)

モニタリングは行っています。

(吉村委員長)

例えば第3候補として森林整備等による生態系の健全化を、もし書くとしたら第4候補として地下水という感じでしょうか。2か所組み合わせてのモニターも十分できそうな感じがしますので、そこは当日のロジ次第というところもあります。例えば第1候補と第2候補を組み合わせて今回やりますという形でもいいと思います。そうした形で今日はテーマとして3つないし4つ挙げる形がよいかと思いますが、いかがですか。

オンラインの太田委員、もし追加で御意見がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(太田委員)

今の吉村先生の御意見に私も賛成ですが、組合せも難しかったりしたら取捨選択が出てくるかなという印象も受けました。

(吉村委員長)

ありがとうございます。

これはここで最終決定するわけではなくて、案を出すということですよ。

(事務局)

そうです。

(吉村委員長)

ですので、重要なところをしっかりと押さえておくという意味で、一応最終案ではないので候補としては4つ上げておきましょうか。それで事業モニターチームの方に検討いただいて、あとは事務局の事情もあるかと思いますが、そこも含めて最終的に確定という流れになると思います。

(自然環境保全センター)

自然環境保全センターですが、よろしいでしょうか。

水源の森林づくり事業の中でテーマが2つ、混交林化と生態系の健全化がありましたけれど、私ども保全センターでは両方のモニタリングを実施しておりまして、調査地がほぼ重なっています。生態系の健全化のモニタリングは目標林型が針広混交林化のところですので、テーマを2つ挙げても結局見ていただく場所は同じでいいのかなと考えております。もちろん時間の話も関わってきますが、先程羽澄委員がおっしゃられたようにそれも一緒にできると思います。

(吉村委員長)

ありがとうございます。

羽澄先生、御指摘のとおりですね。そうすると3つのテーマの組合せもできてしまうかもしれません。少し忙しくなりそうですけれどもね。

(大沼委員)

メインどころではないかもしれませんが、モニタリングで見るとというのは当然物理的といえますか、実際に水や森林や生物多様性がどうなったかということだと思えるのですけれども、今後につなげていくためとか考えると、森林経営などは見られないでしょうか。

(吉村委員長)

林業との関係は私も気になっていました。そこは資料番号でいくと1番なのでしょうか。1番だけではないような気もしますが。

(水源環境保全課長)

いろいろなフェーズがありまして、例えば1番事業は混交林を目指して施業した後、20年後に県の整備が終わりましたら所有者にお返しします。森林経営といえますか、森林づくりのような形にも変わっていきますので、フェーズごとに主体ですとかどうやっていくのかも変わってきますので、もしそういったものも入れるのであれば、できるか分かりませんが、例えば混交林の近くで返還林があればどういうことをやっているかと御質問したり、あとは混交林のそばに道から近い人工林があれば、道から近い人工林については経済林でやっていますので、林業事業体的なものもやっておりますとか、そういったことを含めて今後次期の計画でどういうことを考えているかということ併せてお話しすることは可能かと思えます。

(大沼委員)

すごく大事なような気がします。例えば経済的収益性があるのかや、雇用が持続的にできるのかなど、そうした視点で何か1つあるといいのではないかなという感じがしましたので、検討していただけるといいかなと思います。

(吉村委員長)

ありがとうございます。

(羽澄委員)

関連してよろしいですか。私もここは目標林型という言葉が大事で、針広混交林というのは目標林型の1つだから、片方で生産林をやるところとか広葉樹にするところとかいろいろあって、それで前に意見させていただいたのは、次期20年に関連してのことでもありますが、次の20年で丹沢の中の森林構造をどうするのかという点が実は重要なポイントです。どこを生産林として配置して、どこを広葉樹林として、どこを混交林にするかは、もうこれだけ手を入れた山ですので、次の20年に向けてどの林分をどんな林にするかということを描けないといけません。当然そこには経営論が入ってこなければいけないし、山奥で経営のための何かをする時代ではもうないのだとか。それから、出沒を抑止するのであれば、山麓を人工林にしたほうが良いという話もあるでしょう。そういう検討を次の20年でやっていただかなければいけません。そのたたき台はスタート時点で何か用意しておく必要があると思います。そうした話をストーリーの議論の際にできるかどうか分かりませんが、そういう前提の中で、林業経営のお話も目標林型の混交林の話もいろいろ出てくる

と思います。

それが先ほどの森林塾の話にもつながります。林業をやる人がどんどんいなくなつては困ります。一番のポイントはやはり給料が安過ぎるというのがあるでしょう。林業を公的に支えながら林業技術者を維持するようなことを考えなければいけない。それも次の20年すごく重要なテーマです。林業技術を持った人を持続させる話と、シカなどの捕獲を実施する狩猟技術を持った人、これは同じ人でもいいし、別でもいいと思いますが、そんな体制をどのように維持するのか。どこまで民間に頼れるのかといったことも含めて議論しなければなりません。現実的には県から森林組合に委託を出し、森林組合がシカの捕獲技術を持っていたとしたら、林業の維持とセットでシカの管理もできる主体になるかもしれない。名前を出していか分かりませんが、森林組合みたいなのところがあって、そこに公的資金を投入して維持するというようなこともアイデア論としてはあると思います。どういう方向で、最終的にどんな山にするのかというゴールの像がないと、どのようにカードを切っていくかという議論もできません。そのゴールの像を描かないといけなはずです。その話がずっと棚上げで20年来たと思うのです。取りあえずは水源林とセットでここまでやってこられて、それは間違いではなかったと思うのですが、では次はどうするのかという話で、そこにはやはり生物多様性の保全は必ず絡みますし、災害防止も絡むし、出沒防止も絡みます。テーマは既に全部リストに上がっていますから、そのリストに答えるためにどういう山にするのかという絵面を本当は大綱20年の最終年度に塗り絵をして描いたら一番理想的だったと思います。ただ、その議論には5年くらいかけたほうがいいので、次期20年の最初のI期はそういう議論に充ててはいかがでしょうか。以前にも申し上げたと思うのですが、丁寧にやったほうが良いと思います。そうすればこの事業モニターも結構真剣になります。

(水源環境保全課長)

羽澄委員、ありがとうございます。確かに重要な視点でして、おっしゃるとおり、次期の新しい計画の中でもこういったことを考えていかなければいけないところではあると思います。今後考えていかないといけないのですが、今回のお願いとしましては、まずは事業モニターとの連携を併せて試行をやらせていただけたらなと思います。それはまず試行をやってみて、うまく動くかというところを確認した上で、次期のところにつなげていければと思いますので、森林経営につきましてもどの程度エッセンスが入れられるか分からないので、ひょっとしたら御期待にお応えできないかもしれないのですが、まずは試行で試させていただけたらなということがございます。

(大沼委員)

現場の人の率直なお話を聞くだけでもいいのではないかという気もします。特に経営面あるいは人づくりとか持続といったところでまさにステークホルダーの人たちの意見はとても大事になってくると思いますので、そこはぜひ聞ける機会があるといいかなと思いました。

(土屋委員)

比較的それに近い専門家なので整理したいのですが、森林経営と言ってしまうと実は少しややこしく、違う概念が入ってきてしまいます。おそらく大沼委員は本来の意味でおっしゃったのだと思うのですが、実際に森林の取扱いをする森林組合や林業事業体の経営を何とか持続的にやっていくという話があります。

(大沼委員)

そちらです。

(土屋委員)

そうですね。ところが、経営という場合にはそれ以外に森林所有者の方々、県が持っている部分がありますけれども、それ以外に森林所有者が持っている部分もあって、それはこれまで協定に基づいてやっていたのをお返ししているものがあるわけです。そこについても本当は経済的に成り立っていかなくてはいけないということになっているのですが、おそらくそれはかなり厳しく、そちらに突っ込むというのは、特に神奈川県の場合は厳しいと思います。それは神奈川県の場合、ある意味でいうと公的にやるということで、水源環境保全税を使って公的に支えてしまうという結論を20年以上前に出したのだと思うのです。ですので、その辺りを少し仕分けして、実際に森林の事業を取り扱う様々な主体の持続性を高めるという意味ですね。

(大沼委員)

おっしゃるとおりです。

(吉村委員長)

ありがとうございます。確かに自然環境についてはいろいろな数字を出していただいているところですが、経営関係のところはなかなか見えてこないというのがありますので、これを機会にモニターするのは非常にいい案だと思いました。事務局が少し大変かもしれませんが。

(水源環境保全課長)

もう一つだけ、これはお願いといいますか御相談でございますが、テーマ4の地下水の関係でございますが、試行ということもございますので、できましたら県事業でやらせていただけたらというのが我々の希望となります。あと、やはり県民会議の公募委員の方々ですが、見ていますと森林に興味関心の高い方がかなり多数を占めていますので、できたら試行で御議論していただけてうまく回していく、関係を考えていくためにも森林関係の一番関心が高いものでやらせていただけたら、我々としてもありがたいというのが事務局側の意見ではあるのですが、いかがでしょうか。

(吉村委員長)

ありがとうございます。よく分かりました。

では、時間も来ていますのでそろそろまとめたいと思います。まずリスト化に当たって

は、事業番号よりもむしろ評価の視点、テーマでリスト化しておくというところ、それから今、林業経営だったり、人材育成だったり、恐らく4番事業の間伐材の搬出促進にも関わってくる重要なテーマでもありますので、これを追加して、地下水は今の事情がありますので候補からは外す形にしようかと思えます。

原案としましては、テーマ1としまして、針広混交林などの目標林型への誘導について、それと密接に関係していそうな2番目の、テーマ2としまして、林業経営の持続可能性として1番事業もしくは4番事業、丹沢大山も関係してくると思ひまして、その辺りの事業体の持続可能性についてのテーマを2つ目、3番目にシカ管理について、4番目に森林整備等による生態系の健全化というところを上げておくのがよいかと思ひました。

行く場所によっては例えばテーマ1と2の組合せでモニタリングをするのも可能だと思いますし、1と4という組合せもあると思ひますし、本委員会としてはその4つのテーマをその順番で事業モニターチームに御提案する形がいいかなと思ひますが、いかがでしょうか。来年度の回数と場所、ロジの設定等によって具体的に2つだったり3つカバーできたりというのは決まってくると思ひます。

それから、次回、来年度の最初の委員会で具体的なテーマが決まってくるので、確定までのストーリーの設定というか、評価の視点の洗い出しをしていく形になるかと思ひます。そういう方向でよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

では、その形で事業モニターチームに御提案したいと思ひます。ありがとうございます。

【議題3 県民参加の仕組みに対する提案書の作成について】

【議題4 令和8年度施策調査専門委員会スケジュールについて】

(吉村委員長)

続けて議題3となりますが、時間が押しておりますので、スケジュール等の確認もありますので議題3と議題4をまとめて御説明いただき、2つを議論する形にしたいと思ひます。よろしいですか。では、資料3、4の御説明をお願いいたします。

[資料3及び資料4により事務局から説明]

(吉村委員長)

御説明ありがとうございます。来年度のスケジュールの原案をお示しいただきました。議題3としては県民参加の仕組みに対する提案書の作成の流れということで、8月に仕上げるスケジュールとなっています。8月に完成すると、再来年度の準備ができそうだということですね。分かりました。

いかがでしょうか。気になるところがあれば御指摘ください。

(土屋委員)

このスケジュールでかなり大変な年だと感じましたが、提案書の原案、いわゆるたたき台を6月の施策調査専門委員会の前につくらないと駄目ですよ。そうすると当然施策調

査専門委員会で扱うため、委員長や副委員長といろいろなすり合わせをして原案を完成させなければいけないのだと思います。意見書のときもそうでしたが、その時間がどのくらいあるのかなというところです。そのインプットになる市民事業専門委員会や事業モニター、情報発信の合同検討会議は5月の連休明けくらいに設定できそうなのでしょうか。

(事務局)

市民事業専門委員会、それからチームの検討会議につきまして、来週、再来週に会合があり、そこで委員の皆様と検討させていただきますが、時期としてはそのくらいになるかなと思います。

(土屋委員)

5月は連休もあり短いですが、ある程度原案をつくるには色々なことを考えながら文章化することになります。その原案をつくっていくというのは事務局の皆さんもそうですし、我々も忙しいので、結局なかなかタイミングが合わなかったりするかもしれません。時間的には5月下旬にはつくらないと、集中したものができないかと思います。場合によっては施策調査専門委員会のメンバーの有志でワーキングや勉強会のような形で集まって詰めない詰まらないかと思います。その辺りのところの時間的余裕をつくっておかないといけないかと思いました。

(事務局)

3月24日に提案書の構成を県民会議に議題として上げますので、それが終わり次第、すぐに取りかかり、6月の委員会の前、5月が中心になってしまうのですが、そこでメールや打合せなども御都合を伺いながら設けさせていただきたいと思います。

(土屋委員)

それこそオンラインでワーキング的に集まってもいいかと思います。

(吉村委員長)

そうですね、まだ中身が全く見えてこない段階でのスケジュールなので怖いところがありますが、前倒しできるところは前倒ししたほうがよいかと思います。例えば3月下旬の県民会議で構成だけではなく、主なポイントや重要になりそうな視点も書き出していただくとよいのかと。施策懇談会の後、3週間くらいしかないのですが、その間で整理できたところまで整理していただくのがよろしいかと思います。

あとは5月くらいのタイミングでという御提案がありました。例えば四者協議会をそこで開催して、四者協議会の四者と有志の皆さんで会合を設ける形でもよいかもかもしれません。6月の施策調査専門委員会の後に私としては意見照会の時間があると一番よいのかと思いましたが、懇談会まで1か月もありませんので、7月の施策懇談会の前にできるだけ早い段階で原案を皆さんと共有しておき、読んでいただいて懇談会に来ていただくという流れがいいでしょうか。

委員会のスケジュールも含めて、ほかにいかがでしょうか。各委員会が2時間で収まら

ないような気がしてきてしまいますが、うまくやらないといけませんね。

(土屋委員)

6月の施策調査専門委員会は3時間取っておいたほうがいいのではないのでしょうか。事業モニターのストーリーの検討などもありますし。

(吉村委員長)

確かにそうですね、3時間にしておきましょうか。一応余裕を見てということで、早く終われば、それはそれでいいと思います。

それでは、ほかにないようでしたらこのスケジュールで、タイミングや時期に関して修正はございませんが、場合によっては追加の会議を開催するという事で来年度進めることになるかと思います。よろしいですか。

ありがとうございました。

【議題5 その他（自由意見）】

(吉村委員長)

議題としては「5 その他（自由意見）」を入れてあります。皆さん、気になる点、御提案等がございましたら、自由に御提案いただきたいと思います。次回以降これも検討したほうがいいという点などありましたら御発言いただきたいと思います。もう話題としては十分あるかなと思いますけれども、重要なところがカバーされていますかね。

特にないようでしたら、時間にもなりましたので、本日の議題は以上とさせていただきます。

それでは、以上をもちまして第74回施策調査専門委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

(以上)